



2026年8月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年4月14日

上場会社名 株式会社ヒト・コミュニケーションズ・ホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 4433 URL <http://www.hitocom-hd.com>  
 代表者（役職名）代表取締役社長グループCEO（氏名）安井 豊明  
 問合せ先責任者（役職名）執行役員社長室長兼IR室長（氏名）飯島 幸一（TEL）03(5924)6075  
 半期報告書提出予定日 2026年4月14日 配当支払開始予定日 2026年5月15日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有

（百万円未満切捨て）

1. 2026年8月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年9月1日～2026年2月28日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年8月期中間期	31,102	0.6	729	△42.9	675	△47.2	180	△68.0
2025年8月期中間期	30,927	3.7	1,278	0.3	1,279	1.4	565	4.0

（注）包括利益 2026年8月期中間期 299百万円（△50.6%） 2025年8月期中間期 605百万円（△14.0%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年8月期中間期	10.13	—
2025年8月期中間期	31.68	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年8月期中間期	41,742	18,764	41.2
2025年8月期	40,822	18,907	42.6

（参考）自己資本 2026年8月期中間期 17,196百万円 2025年8月期 17,373百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年8月期	—	18.00	—	19.00	37.00
2026年8月期	—	18.00	—	—	—
2026年8月期（予想）	—	—	—	19.50	37.50

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年8月期の連結業績予想（2025年9月1日～2026年8月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	66,280	4.2	2,800	12.2	2,810	12.2	1,295	51.7	72.58

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 有  
 新規 4社 (社名) 株式会社スクウッド、株式会社伊賀市にぎわいパートナーズ、株式会社津森千里デザインスタジオ、株式会社ティー・シー 除外 2社 (社名) 株式会社ティー・シー、株式会社 f m g

- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年8月期中間期	17,899,333株	2025年8月期	17,899,333株
② 期末自己株式数	2026年8月期中間期	56,933株	2025年8月期	56,933株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2026年8月期中間期	17,842,400株	2025年8月期中間期	17,842,400株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

2. 決算補足説明資料は、作成後当社ホームページに速やかに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	10
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	11

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間(2025年9月1日から2026年2月28日まで)におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって緩やかに回復しております。一方で、米国の通商政策による不透明感に伴う景気下振れリスクやエネルギーコストや原材料価格の高騰による物価上昇が継続し、家計・企業を取り巻く環境は改善傾向にあるものの予断を許さない状況が継続しております。

このような環境のもと、当社グループは「マーケティングの未来創造企業グループ」をテーマに、「ヒューマン営業支援」と「デジタル営業支援」を有機的に融合した「オムニチャネル営業支援企業」としての更なる事業リソースの充実に向けた取り組みを継続しております。具体的には、当社グループ各社が持つ専門性を継続的に高めるとともに、必要に応じて外部リソースを柔軟に活用することで、グループ全体の総合力を高めるとともに事業シナジーの最大化に取り組みます。これにより、雇用機会や新規事業を創出し、社会課題の解決を通じた持続可能なより良い社会の実現に向けて貢献してまいります。

当中間連結会計期間においては、中期経営計画における重点領域である「ホールセール」において、IPライセンスを活用した新規事業及び当第1四半期連結会計期間より連結した株式会社津森千里デザインスタジオが業績に寄与いたしました。また、「スポーツ・エンタメ」において、大阪・関西万博の運営が好調に推移いたしました。

しかしながら、「販売系営業支援」においてストア分野等の受注が伸び悩んだほか、「デジタル営業支援」においては前第1四半期連結累計期間に案件終了したECサイトの影響による減収がありました。また、「エアポート」においては株式会社FMG及び株式会社fmgの決算期変更による減収及び受注拡大が見込める空港グランドハンドリング業務の受注体制強化のためのランプ機材(GSE)や人材確保等によるコスト増加が発生したほか、日中関係の悪化に起因した国際便の減便が発生いたしました。

以上の結果により、当中間連結会計期間の売上高は31,102百万円(前年同期比0.6%増)、営業利益は729百万円(前年同期比42.9%減)、経常利益は675百万円(前年同期比47.2%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は180百万円(前年同期比68.0%減)となりました。

## (2) 当中間期の財政状態の概況

## ① 資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末の総資産の残高は、有形固定資産の取得等により前連結会計年度末に比較して919百万円増加して、41,742百万円となりました。

負債の残高は、短期借入金の増加等により前連結会計年度末に比較して1,062百万円増加して、22,977百万円となりました。

純資産の残高は、剰余金の配当等により前連結会計年度末に比較して142百万円減少して、18,764百万円となりました。

## ② キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	前中間連結 会計期間	当中間連結 会計期間	対前年増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	869	△1,240	△2,109
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,972	△1,311	660
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,086	2,328	3,414
現金及び現金同等物の中間期末残高	11,725	11,708	△17

当中間連結会計期間末の現金及び現金同等物の中間期末残高は、前年度末比17百万円減少し、11,708百万円となりました。

なお、当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況については、以下のとおりです。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において営業活動による支出は1,240百万円(前年同中間連結会計期間は869百万円の収入)となりました。これは、主に前受金の減少、棚卸資産の減少によるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において投資活動による支出は1,311百万円(前年同中間連結会計期間は1,972百万円の支出)となりました。これは、主に有形固定資産の取得によるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において財務活動による収入は2,328百万円(前年同中間連結会計期間は1,086百万円の支出)となりました。これは、主に短期借入れによる収入によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年8月期の通期連結業績予想につきましては、2025年10月14日公表の「2025年8月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の数値より変更はありません。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当中間連結会計期間 (2026年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,133	12,191
受取手形、売掛金及び契約資産	10,871	11,322
商品	491	933
仕掛品	71	87
その他	2,381	1,928
貸倒引当金	△9	△9
流動資産合計	25,939	26,454
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,215	2,428
減価償却累計額	△671	△765
建物及び構築物(純額)	1,544	1,663
機械装置及び運搬具	1,431	1,718
減価償却累計額	△161	△279
機械装置及び運搬具(純額)	1,270	1,439
工具、器具及び備品	888	956
減価償却累計額	△613	△676
工具、器具及び備品(純額)	274	280
土地	1,273	1,273
リース資産	129	291
減価償却累計額	△85	△102
リース資産(純額)	44	189
建設仮勘定	304	383
有形固定資産合計	4,712	5,228
無形固定資産		
のれん	6,106	5,797
ソフトウェア	857	935
その他	151	251
無形固定資産合計	7,116	6,984
投資その他の資産		
投資有価証券	600	537
関係会社株式	850	1
関係会社長期貸付金	440	110
繰延税金資産	556	571
その他	1,187	2,186
貸倒引当金	△579	△331
投資その他の資産合計	3,054	3,074
固定資産合計	14,883	15,287
資産合計	40,822	41,742

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当中間連結会計期間 (2026年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	4,543	4,387
短期借入金	100	2,350
1年内返済予定の長期借入金	1,298	1,372
リース債務	13	37
未払金	4,049	3,372
資産除去債務	8	—
未払法人税等	622	384
賞与引当金	236	193
その他	3,008	2,354
流動負債合計	13,880	14,452
固定負債		
長期借入金	6,756	7,013
リース債務	37	157
繰延税金負債	5	56
役員退職慰労引当金	436	468
株式給付引当金	98	102
退職給付に係る負債	513	525
資産除去債務	134	149
その他	51	52
固定負債合計	8,034	8,525
負債合計	21,915	22,977
純資産の部		
株主資本		
資本金	450	450
資本剰余金	91	91
利益剰余金	16,903	16,707
自己株式	△100	△100
株主資本合計	17,344	17,148
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△0	△2
為替換算調整勘定	28	50
その他の包括利益累計額合計	28	48
非支配株主持分	1,533	1,567
純資産合計	18,907	18,764
負債純資産合計	40,822	41,742

## (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

## 中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)
売上高	30,927	31,102
売上原価	24,614	24,863
売上総利益	6,312	6,239
販売費及び一般管理費	5,033	5,509
営業利益	1,278	729
営業外収益		
受取利息	7	12
受取配当金	0	0
受取補償金	5	—
助成金収入	—	5
違約金収入	20	—
その他	39	15
営業外収益合計	72	33
営業外費用		
支払利息	32	51
貸倒引当金繰入額	30	—
その他	9	36
営業外費用合計	71	87
経常利益	1,279	675
特別利益		
投資有価証券売却益	87	—
特別利益合計	87	—
特別損失		
固定資産除却損	—	1
投資有価証券売却損	—	5
投資有価証券評価損	18	—
特別損失合計	18	7
税金等調整前中間純利益	1,347	668
法人税等	681	392
中間純利益	666	275
非支配株主に帰属する中間純利益	100	95
親会社株主に帰属する中間純利益	565	180

## 中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)
中間純利益	666	275
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△61	△1
為替換算調整勘定	1	25
その他の包括利益合計	△60	23
中間包括利益	605	299
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	504	200
非支配株主に係る中間包括利益	101	99

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	1,347	668
減価償却費	236	434
のれん償却額	414	397
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	1	12
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	27	31
賞与引当金の増減額(△は減少)	△40	△44
貸倒引当金の増減額(△は減少)	45	△3
株式給付引当金の増減額(△は減少)	12	3
受取利息及び受取配当金	△7	△12
支払利息	32	51
受取補償金	△5	—
投資有価証券売却損益(△は益)	△87	5
投資有価証券評価損益(△は益)	18	—
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	360	△256
棚卸資産の増減額(△は増加)	△411	△370
営業債務の増減額(△は減少)	△2,211	525
前受金の増減額(△は減少)	227	△1,110
その他	388	△890
小計	350	△559
利息及び配当金の受取額	7	12
利息の支払額	△32	△53
補償金の受取額	5	—
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	538	△640
営業活動によるキャッシュ・フロー	869	△1,240
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△30	△30
有形固定資産の取得による支出	△1,449	△1,064
無形固定資産の取得による支出	△205	△226
投資有価証券の取得による支出	△52	△0
投資有価証券の売却による収入	114	54
資産除去債務の履行による支出	—	△20
関係会社貸付けによる支出	△300	△20
敷金及び保証金の差入による支出	△63	△28
敷金及び保証金の回収による収入	12	22
その他	1	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,972	△1,311

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)	当中間連結会計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	2,250
長期借入れによる収入	300	983
長期借入金の返済による支出	△1,024	△652
セール・アンド・リースバックによる収入	—	147
リース債務の返済による支出	△4	△15
配当金の支払額	△313	△340
非支配株主への配当金の支払額	△43	△44
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,086	2,328
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	22
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,188	△201
現金及び現金同等物の期首残高	13,859	11,681
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	54	228
現金及び現金同等物の中間期末残高	11,725	11,708

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業的前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の変更

株式会社スクワッド、株式会社伊賀市にぎわいパートナーズ、株式会社津森千里デザインスタジオ及び株式会社ティー・シーは重要性が増したため、当中間連結会計期間より連結の範囲に含めております。

なお、株式会社ティー・シーは、株式会社津森千里デザインスタジオを存続会社とする吸収合併により消滅しております。

株式会社 f m g については、当中間連結会計期間において当社の連結子会社である株式会社FMGに吸収合併されたため、連結の範囲から除外しております。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

当社及び一部の連結子会社における税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	中間連結 損益計算書 計上額
	アウトソー シング事業	人材派遣 事業	EC・TC 支援事業	ホールセー ル事業	計				
売上高									
外部顧客へ の売上高	12,064	4,268	5,051	7,998	29,382	1,544	30,927	—	30,927
セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	11	153	35	0	201	296	497	△497	—
計	12,075	4,422	5,087	7,999	29,584	1,840	31,424	△497	30,927
セグメント 利益(注) 1	365	169	359	369	1,264	23	1,287	△9	1,278

(注) 1 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、介護サービス、教育研修、富裕層向けリムジンサービス、システム開発関連サービス等を含んでおります。

3 セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社資産にかかる減価償却費であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(自 2025年9月1日 至 2026年2月28日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	中間連結 損益計算書 計上額
	アウトソー シング事業	人材派遣 事業	EC・TC 支援事業	ホールセー ル事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	12,936	4,205	4,265	8,068	29,475	1,627	31,102	—	31,102
セグメント間の内部売上高又は振替高	13	196	14	3	227	429	657	△657	—
計	12,949	4,401	4,280	8,071	29,702	2,056	31,759	△657	31,102
セグメント利益またはセグメント損失(△) (注) 1	△193	227	280	413	728	15	743	△14	729

- (注) 1 セグメント利益またはセグメント損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
- 2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、介護サービス、教育研修、富裕層向けリムジンサービス、システム開発関連サービス等を含んでおります。
- 3 セグメント利益またはセグメント損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社資産にかかる減価償却費であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。